



徳島県立総合大学校広報紙

まなびーあ徳島便り

第 14 号
編集・発行
徳島県立
総合大学校

ふるさとを未来へつなぐ

平成29年6月24日(土)徳島県自治研修センター(徳島市)で、映画監督の蔦哲一朗さんによる、映画を通して徳島を考える」と題しての記念講演がありました。(参加者80名)



野球人の祖父について

私は、昭和59年三好市池田町で生まれました。祖父、蔦文也監督率いる池田高校野球部が甲子園での三連覇を成し遂げられなかった翌年に生まれたため、祖父の野球監督時代を見たことがなく、好々爺の祖父しか知りませんでした。そこで、蔦文也という人間を深く知りたいと思い、当時の関係者や祖母の蔦キミ子へのインタビューを通して、ドキュメンタリー映画「蔦監督 高校野球を変えた男の真実」を平成27年に制作しました。

日頃の祖父ではない「攻めダルマ」と言われた、野球監督 蔦文也」を知りました。

映画監督への道

高校までサッカーに熱中していましたが、幼い頃見たアニメやジブリ映画の影響で映画監督を志すようになり、東京工芸大学へ進学し映画学を学び、特に現代主流のデジタルではなくフィルムで撮影することに魅了されました。映画監督になるには、助監督をしながら監督になる道と、映画コンクールで賞を獲り監督となる道があり、私は後者を目指しました。

人間と自然の共存

映画監督デビューという目標を達成し、今度は地元徳島で、人間と自然の共存」を追求した作品を撮りたいと



考え、生まれ故郷である三好市で、祖谷物語「おくのひと」を平成25年に制作しました。幼き頃に見た原風景の祖谷が心を捉え、まずは自分自身が祖谷を知るために、平家の落人がいたような山奥まで入り込み、昔の住家の廃屋を見つけていきました。私はジブリの影響を受けたので、時の経過や人の生きた痕跡を感じるようなものに魅力を感じました。

そして、映画の題材を探していたとき、鹿や猪等による鳥獣被害に苦悩する地元住民の姿を目の当たりにしました。私は害獣駆除の実態を知り、「どちらか正しい」と言い切れない問題」があると感じ、これを軸に撮影することを決めました。そしてこの映画は、東京国際映画祭をはじめトロムソ国際映画祭で賞を受賞しました。

さて、駆除された獣肉の一部はジビエ料理として食されることは皆さんご存じだと思いますが、それ以外は産業廃棄物として捨てられます。そこで私は、良い活用方法はないかと考え、鹿革を本藍で染めた鹿革製品ブランドを立ち上げました。鹿(Deer)のDと祖谷(YA)を組み合わせて「DIYA」プロジェクトとしてクラウドファンディングで活動資金を募り、協賛者には革製品をプレゼントしています。

自然の中で働くありのままの姿

若者に林業に興味を持ってもらいたいという思いで、山間部の林業の実態を描いた「林こずえの羨わざ」という短編映画を撮りました。

この映画は、林業に従事し奮闘する若き女性の「林こずえ」の日常を、「にし阿波」地域の雄大な自然を背景として描いており、林業に対する古いイメージである「キツイ」「キタナイ」「ケン」を払拭し、現代の林業は機械化された女性でも働きやすい環境になつてきたんだよということ伝えていきます。現状を知って林業に興味を持ってもらえようかと考えました。木材は、ノコトや折り紙に製造され技術開発が進んでおり、ますます林業が活性化していくことを願っています。

講演を聴いて

私達人間も自然の中の一員として生かされていることを、往々にして忘れていきます。自然からの享受に感謝し畏敬の念を持つ事が大切です。これからも魂に響く素晴らしい映画を撮り続けて下さい。

とくしま学博士による論文発表

蔦哲一朗さんの講演に先立ち、とくしま学博士の野澤新治さんによる「近世阿波における庶民の読書」と題する論文発表がありました。



